

月刊
monthly

DAY

新企画&現場で役立つ
レク情報など満載!

特集

「介護保険」今後の中心は中重度!

重度化対応のデイ

Q & A
介護報酬改定
今月のNEWS
第2弾



施設紹介

活動(ADL・IADL)向上に力を入れているデイ

- あい介護老人保健施設デイケア
- ハートピアの森リハビリデイサービス

個別機能訓練Ⅱに役立つ
生活行為向上リハに役立つ

別売

7月号
対応版

お役立ち
ツールCD
定価600円
(+税、送料別)発売中。

創作人形/石井美千子
(タイトル:行水)

人間だもの

第4回 人間より動物に癒やされる!?

在宅患者さんの家を訪問すると、いろんな動物と生活していることに気がつきます。犬、猫、鳥、魚、亀…。ついつい患者さんと触れあう時間より、動物と触れ合う時間のほうが長くなってしまうこともあります(笑)。動物たちは邪心が無いので、見ているだけ私たちも癒やされます。邪心が無いという点では、小さな子どもも同じです。寝たきりの患者さんのベッドに、お孫さんや曾孫さんを寝かせると、皆さん見事に反応します。頭をなでて、なにやら話しかける姿に介護家族も驚きます。驚くほど元気になられる様子を見ながら、理屈ではない、感情に訴える「癒やし」効果はすごいものだと感心しています。



高齢者は弱いもの。要介護になるとさらに弱くなり、ふとした優しい言葉に涙したり笑ったりします。自分より若くてエネルギー状態が高いものには大きく反応します。いつも寝

ていて一言も喋らないおじいちゃんも、若いヘルパーさんを1秒で見抜きます。40歳代と20歳代を瞬時に識別する能力は実にすごいものです。

心が弱くなるのは、がん患者さんも同じです。名古屋の掖済会病院の緩和ケア病棟には、“シャネル”という癒やし犬がいました。メスのゴールデンレトリバー。もともとは捨て犬でしたが、捨てられて育てられました。しかしこれから病と闘う患者たちの痛みを癒やす“セラピードッグ”的役割を担っていました。“シャネル”自身も病気になり障がい犬となりました。そんな“シャネル”的写真集がこの春、世に出ました。「下半身動かぬセラピー犬シャネル」(ブックマン社)には、私が解説文を書いています。シャネルと出会ってから私も「癒やし」について考えるようになりました。動物や子どもに勝つことはできませんが、せめてストレスにならない医者にならなければ、と日々自戒しています。



長尾クリニック院長
長尾 和宏 ながお かずひろ

1984年東京医科大学卒業、大阪大学第二内科入局、1995年兵庫県尼崎市で開業、外来診療と在宅医療に従事
日本ホスピス在宅研究会理事、日本慢性期医療協会理事、日本尊厳死協会副理事長、関西国際大学客員教授、東京医科大学客員教授(高齢総合診療科)、「病院でも家でも満足して大往生する101のコツ」など著書多数